

2012年
1月13日
金曜日

村田 治 経済学部長

高い志を持ち続けてください

4年生の皆さんは、あと3ヶ月で大学を卒業し社会人となります。今日は、社会人になる皆さんに向けて卒業にあたってのメッセージを贈りたいと思います。

現在、日本は様々な深刻な問題を抱え歴史的な岐路に立っていると考えられます。まず、経済面では、ギリシャの財政赤字に端を発したEUの問題があり、対ユーロに対しては円高となり日本企業の海外展開が急激に進んでいます。そのため、海外に人材を求める動きが加速し、日本人労働者も海外で働くことが当たり前の時代になりつつあります。まさに、個々人にグローバル化が求められるようになってきています。このような激動の時代に皆さんは社会に出て行くこととなります。激動の時代だからこそ、社会に出てから勉強し続け自己の能力を養っていくことが求められています。このことを前提として、もう一つ大事な姿勢についてお話ししたいと思います。

昨年の3月11日に、わが国は東日本大震災という未曾有の災害を経験しました。地震と津波による大きな被害に加えて、福島原子力発電所

からの多量の放射能の漏えいという深刻な問題に直面しました。これは、原子力発電それ自体の是非を問う重大な問題提起となりました。あの意味では、人類の存亡をも視野に入れなければならぬ大きな問題だと思われれます。ヨーロッパでもドイツのように原子力発電をやめる国もあれば、フランスのように存続する国もあり、この問題に対する答えは一つではありません。直近の電力不足や経済的影響を重視するのか、放射能の半減期を考えて長期的な問題としてとらえるのかによっても考え方が異なるでしょうし、個々人が置かれてくる立場によっても答えも違ってくるかもしれません。このような難しい問題を考える際に、大切にしてほしい姿勢があります。

それは、「高い志（こころざし）」を持つという事です。よく似た言葉に「野心」や「野望」がありますが、これらに決めた目標を指すという意味にあると思います。しかしながら、「野心」や「野望」と「志」は違う点があります。「志」という字は、「さむらい（士）の心」と書き

ます。この「さむらいの心」は、いわば武士道を意味します。皆さんは、新渡戸稲造をご存知でしょうか。一時、5千円札に肖像が書かれていた人物ですが、『武士道』の作者で世界的に知られています。新渡戸稲造は22歳のときアメリカに留学し、そのときにキリスト信者になっています。『武士道』は、彼が38歳のときに英語で書いたもので、原題は、『Bushido The Soul of Japan』とあります。『武士道』は17章からなる書物ですが、新渡戸稲造はこれらの説明を行う際に、多くの聖書の言葉を引用しております。

武士道では高い倫理観が波及され、そのため、個人的利益よりも公の利益が求められます。つまり、個人のためではなく、日本や世界、あるいは人類のためという考えが基本にあります。これは、アメリカの個人主義とは異なる考えです。個人主義の基本にはプロテスタンティズムの精神があり、個々人の利益の追求が社会全体の利益になるという考えがあると言えるでしょう。さらに、この個々人の利益の追求が効率的に行われる仕組みとして、市場原理が

位置づけられています。本来、市場には秩序があり、それを実現させる仕組みとして、独占禁止法などが制定されているのですが、これは、個々人の利益の追求は、場合によっては社会全体から見てもマイナスになりうるという考えが基本にあるからです。このように考えますと、武士道の考え方の重要性がわかっていただけたと思います。

もちろん、個人主義に基づく個人の利益の追求それ自体は決して悪いものではなく、発明や革新の原動力でもあります。重要なことは、個人の利益の追求がどこまで許されるのかという点に関して、一人ひとりが確固たる価値観や倫理観を持つことではないでしょうか。このような価値観や倫理観を持つことが「高い志」の前提に無ければならないと思います。さらに、価値観や倫理観に裏付けられた「高い志」は、まさに、Master for Service と相通ずるものがあります。

皆さんが、高い志をもって世界で活躍することを期待しております。